

古典

「うつくし」、「うるわし」、「なつかし」。

金光桂子教授
(文学研究科)



古典のこぼれをおして感じるのはいにしえ人の感受性のこまやかさ。平安時代と現代のこぼれを比較すると、名詞の数は増えてはいますが、形容詞・形容動詞はかなり減っています。現代人なら、「うつくしい」と一語で表現してしまうようなことで、「うつくし」や「うるわし」などの形容詞をたくみにつかひけるのです。

「うるわし」は「整った端正なうつくしさ」を意味します。「整ったうつくしさ」とはなにかを理解しないまま、受験のためにただ暗記する人は多いかもしれませんね。どんな女性を「うるわし」と形容しているのか、その女性にはほかにどんなこぼれ形容されているかを調べてみると、ことばの理解がだんだんと深まります。

「うるわし」は「なつかし」ともよく比較されます。光源氏の母の桐壺は「なつかし」、中国の唐の皇妃だっ

た楊貴妃は「うるわし」。「なつかし」はいまのことばでいう「癒し系」の女性や、親しみやすさを感じさせる人につかわれることが多いのです。みぢかな友だちや芸能人を「うるわし」、「なつかし」に分けてみてみてください。実生活に結びつけて考えると、おのずと違いがわかるようになりますよ。



将 来の目標や自分の個性を「はやく見つけなければ」と、焦っていませんか。そうかんたんに見つかるものではないし、たとえ見つからなくても焦る必要なんてないんです。「平凡なサラリーマンなんてつまらない」という人もいますが、それはそれでいいじゃないですか。興味のあることがあれば、やってみればいいし、夢中になれるものが見つからないなら、自分に与えられたことにしっかりと取りくめばいい。どちらの方法でも道は拓けるはず。がむしゃらに取りくんだ経験も悩んだ日々も、あなたのだいいな一歩ですよ。

かなみつ・けいこ

1973年に神戸市に生まれる。京都大学大学院文学研究科博士後期過程を修了。大阪市立大学大学院文学研究科助手、京都大学大学院文学研究科准教授をへて、2017年から現職。

倫理

「幸せとはなにか」。あなたに答えられますか

マルク・アウレリウス・デロッシュ准教授
(総合生存学館)

高校の「倫理」で学ぶ内容は、人文科学・社会科学の領域にまたがっています。西洋哲学における、哲学 (philosophia) の語源は、「知恵 (sophia) への愛 (philo-)」。

知恵をつけて、善く生きるための学問でした。そうはいっても、人は一人で生きるのではないから、そこには必然的に社会が存在するのですね。

「善く生きる」には「自覚」が重要です。「自分になる」、「人間になる」自覚とは、自分の感情や考えをコントロールする心の成長を意味します。

自覚には、「内観」の訓練が必要です。内観というのは、自分の意識や状態、考え方のパターンやそのまがいを意識することです。内観には注意力が必要ですが、現代社会は情報が氾濫していて、注意力が散漫になりがち。スマートフォンなどの通信機器も普及して、完全に独りになる時間が少ない。「自覚」の習慣がなくなってしまうのです。自分の感情や考えを管理できない人が増えると、「倫理が守られていない」という声が増えてくる社会になります。

だれもが「幸せになりたい」と思っています。では、「幸せ」とはなんでしょう。哲学は、みずからのありかたこそが重要だと教えてくれます。幸せは外から得られる

おすすめの入門書

マルクス・アウレリウス『自省録』
第16代ローマ皇帝が自分のために書いたとされる哲学的思索の記録。



『ダンマパダ (真理のこぼれ)』
仏教の開祖、仏陀 (釈迦牟尼) のことばを詩のかたちにとまとめたもの。現存最古の経典といわれている。

どちらの文献も、みぢかな体験をもとに自分を見つめなおすことを教えてくれる本です。

Marc-Henri DEROCHE

1979年にフランスに生まれる。2011年にEPHE (パリ) にて東洋学博士号を取得。京都大学白眉センター特定助教をへて現職。

